

1 基本情報						
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要				
潮風公園・台場公園		(指定管理者名) 東京臨海副都心グループ (団体の概要) (株)東京臨海ホールディングスが統括し、東京港埠頭(株)が実績と専門のノウハウを生かした維持管理を行い、(株)東京レポートセンターが近隣ビルと駐車場の管理を行う。				
指定期間						
H 28.4.1～ R 8.3.31 (10年間)						
2 施設名		3 収支(単位:千円)				
東京都立潮風公園 東京都立台場公園		項目	金額	公園別支出額		
		収入計	92,634	《潮風公園》75,442千円 《台場公園》10,433千円		
		内 指定管理料	92,634			
		賦 利用料金	0			
		支出計	85,875			
収支差	6,759					
4 管理運営の概要						
特記すべき事項						
<p>◆東京2020大会開催に向けての取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潮風公園内の東京2020大会関連工事に伴う建築物設置に当たっては週1回程度の高頻度で現地立ち会いをし、公園機能に支障が出ないように設置場所・動線等の調整を行った。 ・東京2020大会に関連して、公園側から首都高用地に大型バス(試送)が走行する為、走行ルートを確認を組織委員会及び川崎国道事務所と実施し、一部支障になる樹木の枝を剪定し安全にバスが走行できる状態にした。 <p>◆公園閉鎖期間を有効活用した維持管理の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潮風公園においては、開園時は実施が難しい工事を閉鎖期間を有効活用して実施した。予防管理の観点から樹木医が診断を行い危険木を選定して都・組織委員会と協議しながら伐採した。 <p>◆新型コロナウイルス感染防止対策の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者向けには、受付窓口に手指消毒液・飛沫防止アクリル板を設置、トイレにハンドソープ・ペーパータオルを設置し安心して利用できる環境を整えた。 ・社員向けには、上記の他、マスク着用・検温を徹底、テレワークを実施して感染予防に努め、感染者を出すことなく安全な環境を維持することができた。 <p>◆歴史と文化を活かした公園管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東京文化財ウィーク2020」の期間中にライトアップ照明の設置箇所を例年より拡充し、お客様に幻想的な景観を提供した。 <p>◆再開園におけた情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当社HPより、「門松づくり」をyoutubeで配信し、日本の伝統技術の紹介や次年度開催のPRを行った。 <p>◆特定外来種対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリなどの特定外来種への対応として、担当者が環境省主催のオンライン講習会を受講し、取得した基本情報を社員に周知するとともに、その情報を活用して園内巡回確認を行い早期防除できるよう努めた。 						
5 管理状況(維持管理)						
<p>・当初計画に基づき、施設点検や修繕を着実かつ適切に行った。実施にあたっては当社独自で作成の不具合処理調書を活用して速やかに補修作業を行い施設の適正な維持管理に努めた。また、東京2020大会準備工事のため潮風公園が閉鎖されている期間に、開園時では実施しにくい電気設備や園内全域の給排水設備工事を予防保全対応として都と協議しながら実施した。</p> <p>・既契約電力量では大会運営をしつつ公園機能を維持するには不足しているため、新たに電力量を増設することとし、工事に向けて経済産業省への提出書類の準備・調整を担った。</p> <p>・昨年度の台風で倒伏した樹木に類似する樹木を中心に樹木医が診断して危険木を早期発見し、都・組織委員会と協議しながら対象木を伐採(危険木伐採工事)することで倒伏の未然防止につなげた。</p>						
6 利用者アンケート結果						
実施方法: 公園内で調査票を配布・回収						
施設名	回答数	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
潮風公園	0	—	—	—	—	—
台場公園	102	4.5	4.5	4.4	4.4	4.4
7 入園者数の状況(単位:人)						
施設名	当該年度	分析				
潮風公園	0	東京2020大会工事に伴い全域閉鎖中のため利用者なし。				
台場公園	17,402	令和2年4月～6月、令和3年3月以降は東京2020大会工事に伴い閉鎖。7月～2月末までは開放したが、外出の自粛要請や撮影の受付休止の期間があったことなどから利用者は前年度より大幅に減少した。				
合計	17,402					

東京臨海副都心グループ 都立潮風公園

本年度、力を入れて取り組んだ5つの取り組み

公園閉鎖期間を有効活用した維持管理の実施

再開園に向けた情報発信

東京2020大会延期に伴う対応

コロナウイルス感染防止対策の徹底

特定外来種の対応

1 公園閉鎖期間を有効活用した維持管理の実施

東京2020大会工事により公園が閉鎖されたため、修景施設のカスケードの水中照明LED化工事や園内全域の給排水設備工事など、**開園時は実施が難しい工事を閉鎖期間を有効活用して実施した。**また、汚水ピット等の設備点検にて発見した不良箇所などについても大会時にも問題なく使用できるよう都と協議を重ね修繕を行った。さらに予防管理の観点から、昨年度の台風で倒伏した樹木に類似の樹木を中心に樹木医の診断を行い、**危険木を選定して都・組織委員会と協議しながら伐採した。**



水中照明LED化工事状況



危険木伐採工事（作業中）



危険木伐採工事（作業後）

2 再開園に向けた情報発信

①ミニ門松づくり教室

東京2020大会工事や新型コロナウイルス感染拡大の影響により潮風公園や台場公園での実施ができなかったため、講師の技術力向上や技術伝承のため、社内で「門松づくり技術伝承研修」を実施した。また、門松の作成方法を分かりやすくYouTubeで配信し、日本の伝統技術の紹介・次年度開催PRを行った。



ミニ門松づくり教室

②新規イベント調整

東京2020大会工事による公園閉鎖や新型コロナウイルスの影響で予定していた自主事業が開催できなかったため、翌年度以降の自主事業開催に向けて新規事業の調整・準備作業に取り掛かった。大会後に計画している新規イベント(フィットネス教室)の実施に向け、パーソナルトレーナー、テレビタレントとして活躍しているチャックウィルソン氏(日本にエアロビクスエクササイズを紹介した第一任者)と協働する内諾を得、プログラムなどの意見交換を開始した。



新規イベント打合せ

③twitterでの情報発信(開花情報等)

公園閉鎖中も、公園南側に咲いているサクラ(並木)開花状況をtwitterに随時掲載する等、継続的に開花情報等の発信をして再開園時までお客様の関心を持続させる取り組みを行った。



3 東京2020大会延期に伴う対応

①東京2020大会時の電気容量の確保

東京2020大会開催に伴い公園の既契約電力量では不足することから組織委員会と調整を重ね、大会運営をしつつ公園機能を維持できる電力量を新たに増やすこととし、工事に向けて経済産業省へ提出が必要な書類(保安規定変更届、協定書等)の準備、調整を担った。

②園内の東京2020大会関連工事に伴う協力・調整

大会開催に向けての建築物設置に当たって、週1回程度の高頻度で現地立ち会いをし公園機能に支障が出ないように設置場所・動線等の調整を行った。

また、園内工事で電源を使用する際適宜園内分電盤をご案内すると共に使用時の立ち会いを行い、円滑な大会関連工事の実施に協力した。



③大型バス試走ルート調整

公園側から隣接する首都高用地に大型バス(試送)が走行するため、ルートの確認を組織委員会及び川崎国道事務所と実施し、一部、走行の支障になる樹木の枝を剪定し安全にバスが走行できる状態にした。

4 コロナウイルス感染防止対策の徹底

①関係者や公園スタッフに対する感染症対策

東京2020大会関連工事により園内全域を閉鎖していたが、事務所を訪れる工事関係者用として、受付窓口に手指消毒液・飛沫防止アクリル板の設置、トイレにハンドソープ・ペーパータオルを設置し、安心して利用できる環境を整えた。

社員には、マスク着用・検温を徹底し、また事務所内でのアクリル板の設置・手指消毒液設置、トイレへのハンドソープ・ペーパータオル設置などを行うほか、テレワークを導入し感染予防に努めた。こうした取り組みの結果、感染者を出すことなく安全な環境を維持することができた。

②利用者への意識啓発

潮風公園における花の鑑賞や撮影に関する問合せがあった際は、代替として臨海副都心内の公園を提案しながら、公園利用に係る「新しい利用ルール」を周知するなど感染防止への意識啓発に努めた。



5 特定外来種(ヒアリ)対応

近隣の埠頭でヒアリが発見されたことに伴い、ヒアリの早期発見・早期防除をするため、担当者が環境省主催のオンラインヒアリ講習会を受講し、社員に周知を図ってヒアリ発見時に適切な対応がとれる体制を整えた。併せて園内巡回の際、ヒアリの存在確認を行い早期防除できるよう努めた。



東京臨海副都心グループ 都立台場公園

東京
2020大会
開催に
向けての
取組み

歴史と文
化を活か
した公園
管理

安全と景
観の確保
を目指した
維持管理

コロナウ
イルス感
染防止対
策の徹底

本年度、力を入れて取り組んだ4つの取組み

1 東京2020大会開催に向けての取組み

東京2020大会延期に伴い、7月から再開園することが決まったため、閉鎖期間中に繁茂し通行の支障となった樹木を剪定したほか、隣接するお台場海浜公園内に通行路を設けるなど来園者が安全に利用できる環境を整えた。

また、隣接するお台場海浜公園の一部閉鎖に伴い、わかりづらくなってしまった台場公園への迂回ルートを工事の進捗に合わせて海上公園と一体的に現地やHPで案内し、来園者目線での情報発信に努めた。

2 歴史と文化を活かした公園管理

国の史跡として幕末当時の歴史を今に残す公園であるため、マツを仕立てて雪吊りを行うなど史跡にふさわしい維持管理を行った。

また、「東京文化財ウィーク2020」の期間中(10月1日～11月30日)夜間のライトアップを例年より設置箇所を拡大して実施しお客様に幻想的な景観を提供するとともに場所によっては足元灯も兼ね歩行時の安全を確保した。



マツ 仕立て剪定前・後

3 安全と景観の確保を目指した維持管理

来園者の安全を確保するため、経年により劣化した鉄線木柵及びびろープ木柵を補修した。

また、園内で発生したナラ枯れについては、速やかに樹木医が診断し結果を都へ報告するとともに、都及び港区教育委員会と調整のうえ、周辺樹木への感染防止及び倒木を回避する目的で伐採処理した。



ナラ枯樹木 伐採 前・後

4 コロナウイルス感染防止対策の徹底

①社員等の感染防止対策

社員には、マスク着用・検温を徹底し、また事務所内でのアクリル板の設置・手指消毒液設置、トイレへのハンドソープ・ペーパータオル設置などを行うほか、テレワークを導入し感染予防に努めた。こうした取り組みの結果、感染者を出すことなく安全な環境を維持することができた。



スタンプ台：消毒液の設置

②お客様・委託業者等来訪者への対策

事務所に来訪される方向けに、受付窓口手指消毒液 飛沫防止アクリル板・検温器を設置し安心して利用できる環境を整えた。

さらに、ソーシャルディスタンスを守ってもらうため、台場公園の出入口に新しい公園利用ルールを掲示し、距離感認知のため2mの横断幕を設置して感染予防に努めた。



横断幕(2m)の設置

③続・100名城スタンプの再開

スタンプラリーの再開にあたっては、スタンプを押しに来園されたお客様の感染予防のために手指消毒液を設置するとともに、こまめに設置台周辺を消毒するなど感染防止に努めた。